

「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】天塩町立天塩小学校
【活動の名称】 「チャレンジデー（放課後タイム）」の充実
【活用した資源】全教職員、全学年分の検定用紙
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

（項目ア—観点①居場所づくり）

【活動の概要】

- ・放課後の15分間を、児童の苦手なところを補う学習サポートの時間として全校で取り組む。
- ・週に1回「チャレンジデー」を設定し、天チャレ検定（音読と暗唱の検定）の時間とする。
- ・学期末に、天チャレ検定優良者による発表会と表彰式を行う。
※天チャレ検定とは、音読と暗唱の両方に合格することで、級をもらうことができる取組であり、音読・暗唱ともに10級から5段まで設定している。

【ねらい】

- ・励まし合い、競い合いながら取り組むことで互いを認め合うとともに、意欲を高めて学習に取り組むことで、充実感・達成感を味わいながら学力向上を目指す。〈児童〉
- ・複数体制（各学級2～3名）で指導し、児童が見守られているという安心感・充実感を味わえる機会にするとともに、児童の取組状況を把握しながら、個に応じたサポートを行う。〈教師〉

【活動の流れ】

①毎日の朝学習の時間のうち、週2回を天チャレ検定の練習時間として設定する。



〈朝学習の音読練習（1年生）〉

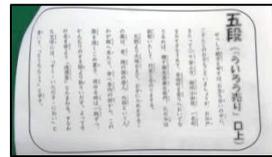


〈学級での保管の様子（2年生）〉



〈児童への説明に使用した資料〉

②週1回の天チャレ検定の時間に、担当の先生のところで音読か暗唱のどちらかを発表する。その際、声の大きさやスラスラ読んでいるかをチェックする。



〈天チャレ検定の暗唱検定内容（4年生）〉



〈週1回の天チャレ検定の様子（5年生）〉

③音読と暗唱の両方に合格したら、次の級の練習をする。

④学期末（年3回）に、検定優良者（各学年5名程度）による発表会を行い、表彰式も行う。



〈1年生の音読発表〉



〈2年生の音読発表〉



〈3・4年生の音読発表〉



〈5・6年生の音読発表〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・目標を細かく設定しながら、意欲的に取り組み、全員が合格に向けて自らを高めようと学習する姿が見られた。〈児童〉
- ・複数体制による指導を通して、担任だけでなく、様々な先生が各学級の様子や実態を把握するとともに、全教職員が一体となって取り組むことができた。〈教師〉

- 検定という形をとることで自分の努力やがんばりが合格につながるという達成感や、発表会を行うことにより、そのがんばりをみんなに認めてもらえるという充実感などを味わうことができ、意欲を高めることができます。
- 苦手意識を克服し、安心して学習に取り組むことにより、学校や教室が児童にとっての「居場所」となることにつながっています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】枝幸町立枝幸小学校
【活動の名称】異年齢活動の取組（縦割り活動）
【活用した資源】児童会活動
【対象学年と活動の時期】全学年 5月～

（項目イー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・縦割り班での清掃活動（5月、11月）
- ・縦割り班対抗で全校遊びを行う。

【ねらい】

- ・異年齢集団による交流を通して、思いやりの心を育み、他学年との関わりを広げ深める。
- ・6年生はリーダーとしての役割を自覚し果たすことにより自己肯定感や自己有用感を高める。
- ・縦割り清掃や全校遊びを通して、相手を思いやる気持ちや、互いのよさを認め合う態度を育てる。

【活動の流れ】

①5月の全校朝会で自己紹介（顔合わせ）を行う。



〈縦割り班のメンバーで顔合わせ〉

顔合わせの時は緊張したけれど、掃除や全校遊びをしているうちにみんなと仲よくなりました。楽しかったです。

②5月に縦割り清掃を行う。（2週間で5～6回）



〈協力して学校をキレイに〉

いつもと違う場所をみんなですべて掃除して楽しかった！モップも使えて楽しかった！



〈お互いのがんばり発表〉



他の学年の人と掃除してきれいになってうれしかった。

6年生がほうぎの使い方を教えてくれたから、ほうぎが上手に使えるようになった。

③児童会企画で、縦割り班を使った全校遊びを行う。（年数回）



〈司会は書記局〉

〈盛り上がる全校遊び〉

下級生に、掃除の仕方を正しく伝えられたのでよかったです。毎回、ゴミが多かったけど、時間内に終われたし、よい班だったと思う。

④11月に2回目の縦割り清掃を行う。



〈笑顔あふれる縦割り清掃〉

一日経つごとに少しずつ仲よくなっていて、話せるようになってよかった。



〈上級生が下級生のよいお手本に〉



【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・異年齢集団による交流を通して、他学年の児童にも目を向けたり、思いやりの心や仲間意識を高めたりすることができた。

- 異年齢集団による交流を行うことにより、上級生に思いやりの心を育てるとともに、リーダーシップを育てる場とすることができています。
- 年間を通じて、異年齢集団による交流を意図的、計画的に行うことにより、リーダーシップを育むとともに、同年齢の児童同士の望ましい人間関係の形成にもつながっています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】 枝幸町立枝幸小学校	
【活動の名称】 地域とふれあう活動（ハマナス大学との交流）	
【活用した資源】 ハマナス大学（高齢者の方々の学習と交流の場）	（項目ウー観点②絆づくり）
【対象学年と活動の時期】 3年生 6月～2月	
【活動の概要】 ・ハマナス大学の方と、花壇づくりや凧づくりなどを通して交流する。	
【ねらい】 ・地域の方との交流を通し、様々な体験ができることに感謝し、自分なりの感謝の表現をすることができる。	
【活動の流れ】 ①花壇づくりを通して、ハマナス大学の方と交流する。	
	
ハマナス大学のみなさん、花壇の作り方を教えてくれてありがとうございました。	
	
<みんなで記念撮影>	
	
花植など、とても楽しかったです。また来年も、子どもたちとしたいですね。	
②ハマナス大学の方に感謝の手紙や、学校行事への招待状を書く。	
③凧づくりを通して、ハマナス大学の方と交流する。	
	
	
<グループに分かれての凧づくり>	
凧を作っている時、とてもワクワクして楽しかったです。	飛んだので、よかったです。教えてくれてありがとう。
	
④感謝の意を込めて交流発表会を開き、給食を一緒に食べる。	
	
<学年児童会の企画・進行による交流発表会>	
	
<会話を楽しみながらの給食>	
	
うれしいお便りや、ステキなカードをいただきありがとうございました。楽しい思い出として大切にします。これからも元気で楽しく学校生活を過ごしてね！！	
【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】 ・様々な人との交流を通して、認められたり褒められたりしたことにより、自己有用感や思いやりの心が育った。	

- 地域の様々な経験を積まれた方々を効果的に活用することにより、児童は学習への興味や関心をより一層高めたり、理解を深めたりすることができています。
- 異年齢集団による交流や異世代との交流により、相手の立場等を考えるとともに、仲間同士を思いやることにつながっています。

